

MC/MM Phono amp

PERSEUS

Owner's Manual



constellation audio

ご注意！必ず最初にお読みください。

■ すべての配線完了まで電源を投入しないこと

- ・電源部背面にあるメイン電源スイッチは、全ての配線が終了するまでオンにしないでください。メイン電源がオンの状態で各配線の抜き差しをすると、ときに、静電気の影響などにより回路が破損する危険性があります。
- ・したがって、ご使用中にケーブルの抜き差しを行う場合にも、必ずメイン電源をオフにしてから行ってくださいますようお願いいたします。

■ 本機に採用の各素子は、温度変化などに極めて敏感です

- ・本機の信号回路等に使用されているFETは、音質的に極めて優れた素子ばかりです。しかし反面、環境の変化などにも非常に敏感なことから、温度変化等による特性変動などが一般的な素子よりも生じやすい可能性があります。
- ・そのため例えば、本文中で述べる負荷抵抗値などが設定後に変動することもあります。これは故障や異常ではありません。
- ・また信号回路は、ウォーミングアップが十分にすすみ回路の温度が安定した状態で最高のパフォーマンスを発揮するように設計されています。したがって通常は、本機をご使用にならない場合でもメイン電源はオフせず、スタンバイ状態で待機させることをお勧めします。

製品の保証について

製品の品質管理につきましては万全の体制を取っており、厳密な検査を経て出荷しておりますが、万一製品上の不備による自然故障が生じましたら、弊社の保証規定に基づき、保証期間内であれば保証書をご提示いただくことにより無償にて修理をさせていただきます。

製品の保証は、正規販売店より新品の状態でご購入いただいた場合に限りさせていただきます。第三者よりの譲渡、あるいは中古品でのご購入による場合は、保証の適用対象となりません。この場合は保証登録カードにご記入・ご返送いただいても保証書を発行することはできませんので、あらかじめご了承ください。

なお、保証期間内であっても、保証書記載のご氏名と異なる方がご使用になっている場合には保証は適用されません。

保証書の発行について

お手数ですが、同梱しております保証登録カードに必要事項をお書きの上ご投函ください。弊社にてご愛用者登録を行ない、同時に保証書を発行させていただきます。保証書が発行されていないと、保証期間内であっても有償修理とさせていただきます。大変お手数ですが保証登録カードのご返送を忘れないようお願いいたします。

尚、保証登録カードのアンケート項目にも、もれなくご記入くださいますようお願いいたします。お寄せいただきましたアンケート、ご意見、ご感想は、わたくしどもの貴重な資料として今後の弊社のサービス向上に役立たせていただく所存でございます。

修理、アフターサービスの御用命について

修理、アフターサービスの御用命は、お買い上げいただいた販売店にお申し付けください。

個人情報の取り扱いについて

弊社では、お求めいただいた高価な製品を末永くご愛用いただくために、良質なアフターサービスをご提供する目的で、製品に付属の「保証登録カード」にご記入・ご送付いただいたから「保証書」を発行するという方式を採用しております。お手数ではございますが、何卒主旨をご理解のうえご協力を賜りますようお願いいたします。

尚、「保証登録カード」にご記入、ご返送いただいたお客様を識別・特定し得る個人情報につきましては、弊社にて適切に管理することを社会的責務として重要と考え、下記の基本方針に基づきお客様情報の保護、管理を徹底することを誓約いたします。

「保証登録カード」にご記入いただいたお客様情報の利用目的について

当社が得たお客様情報は、以下の目的以外には利用いたしません。

- お客様へのアフターサービス業務の基礎資料として
- 弊社より発信するダイレクトメール等情報のお届けのため

お客様情報の管理について

当社はお客様情報を取り扱う管理責任者を置き、紛失、漏洩、不正な第三者提供などが無いよう、お客様情報の取り扱いに十分な注意を払います。

収集したお客様情報の第三者への提供、開示について

収集したお客様情報をお客様のご許可なく弊社以外の第三者に提供することはありません。但しお客様と当社間で製品の配送等のために、お客様に明示することなく委託業者に対しお客様情報の一部を開示することがございますが、利用目的の必要範囲内に限定してこれを行います。この場合にあつては委託業者に対し、お客様情報を他の目的に使用、もしくは開示しない義務を履行させるべく対応します。

情報発信の停止とお客様情報の削除について

弊社では、製品をご愛用いただいておりますお客様に、新製品やイベントの情報等を郵便や電子メールにより発信させていただくことがありますが、ご不要の場合にはお客様からのお申し出により差し止めさせていただきます。

お客様よりお客様情報の削除の申し出があつた場合には速やかにこれを削除いたします。

目次

1 ごあいさつ	6
2 ご使用前に	6
2.1 付属品の確認	6
2.2 安全にご使用いただく	6
2.3 オーナーズマニュアル	7
2.4 電源について	7
2.5 輸送と梱包について	7
2.6 クリーニング	7
2.7 メンテナンスとサービス	7
3 各ケーブルの接続	8
3.1 本体と電源部の接続	8
3.2 信号入力ケーブルの接続	9
3.3 出力ケーブルの接続	9
3.4 アースの接続	10
4 操作方法	11
4.1 電源投入 ① (メイン電源投入からスタンバイ状態に)	11
4.2 電源投入 ② (スタンバイ状態から動作状態に)	12
4.3 INPUT SETUP画面	13
4.4 ファンクションボタン	14
4.5 入力の切替え	15
4.6 MCロードの設定	16
4.7 MMロードの設定	17
4.8 フォノ・イコライザー特性の調整	18
4.9 再生を開始する	19
4.10 ディスプレイの各種調整	20
4.11 再生を終了する	21
5 トラブルシューティング	22
6 スペック	23

1 ごあいさつ

この度は、Constellation Audio PERSEUS フォノプリアンプ(フォノ・イコライザーアンプ)をお買い求めいただき、ありがとうございました。本機 PERSEUS (ペルセウス)は、究極のパフォーマンスと精密さを併せ持つ優れた製品ですが、音質最優先設計のため、通常モデルとは異なりご使用には若干の注意が必要です。本機の優れた性能を十分に発揮させていただくためにも、ぜひ本説明書を十分にお読みいただくようお願いいたします。

2 ご使用前に

2.1 付属品の確認

- ・ 本機の梱包を解かれたら、直ちに付属品を含む内容の確認をしてください。もし欠品などに気付かれた場合は直ちにお買い上げの販売店にご連絡ください。梱包内には以下の5点が納められています。

- ・ PERSEUS本体
- ・ PERSEUS電源部
- ・ 電源ケーブル1本
- ・ オーナーズマニュアル1部(本書)
- ・ 保証登録カード

2.2 安全にご使用いただくために

- ・ 本体および電源部ともに、しっかりとした水平なラックや台の上に設置してください。
- ・ 電源部を本体の上に直接載せないようお願いします。
- ・ 長時間にわたるご使用の場合などは、ことに本体からはかなり発熱します。風通しの悪い場所などへの設置はお避けください。
- ・ 本体も電源部も、水の近くや極端に湿り気の多い場所には設置しないように。また共に、水や液体に浸すなどは絶対になさぬように願います。
- ・ 本体・電源部共に、直射日光の当たる場所への設置はお避けください。また熱を発生する家電製品などの近くもお避けください。
- ・ 本体および電源部ともに、けっして筐体を開けないでください。内部にはお客様の調整を要する箇所はございません。

2.3 オーナーズマニュアル

- ・ 本機の接続や操作を行う前に、当オーナーズマニュアルをよくお読みいただき、常に手の届くところに保管してください。
- ・ 当オーナーズマニュアルの説明や操作方法に不明な点などがありましたら、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

2.4 電源について

- ・ 本機は日本国内向けの100V仕様です。必ずAC100V電源でご使用ください。また付属の電源ケーブルは他の機器にはご使用にならないでください。
- ・ 本機の配線接続やクリーニングを行うとき、あるいは激しい雷が発生したときや長期にわたり使用しない場合などは、安全のため本機の電源ケーブルをコンセントから抜いてください。

2.5 輸送と梱包について

- ・ 修理などで本機を輸送する必要があるときなどのために、本機のオリジナル段ボール箱を保管しておかれることをお勧めします。保管には乾燥した清潔な場所をお選び下さい。

2.6 クリーニング

- ・ 本機のクリーニングは、柔らかく乾燥した良質な布などで軽く拭くなどし、薬剤や洗剤などは絶対に使用しないでください。機器にダメージを与える例があります。

2.7 メンテナンスとサービス

- ・ 本機の付属品にはサービスパーツ等は含まれておりません。修理やメンテナンスを必要とするときは、必ずお買い求めになった販売店にご連絡願います。万一お客様が筐体をお開けになった場合、アフターサービス保証の対象外になることがあります。

3 各ケーブルの接続

3.1 本体と電源部の接続

- ・電源部の背面から、6ピン・ケーブル1本と、3ピン・ケーブル2本、合計3本の給電ケーブルが伸びています。6ピン・ケーブルはコントロール回路用電源。2本の3ピン・ケーブルは、それぞれLチャンネルとRチャンネルのアナログ回路用電源です。
- ・3本の給電ケーブルのうち6ピン・ケーブルを、本体背面に3個並んだ接続端子の、真ん中の端子に差し込みます。ピンの位置が正確に合うよう両端子の切欠きを確かめながら、カチッと固定されるまで差し込んでください。
- ・2本の3ピン・ケーブルにはL/R同一なので、それぞれをどちらの端子に差し込んでも問題ありません。

(ご注意) 本体背面部、各入出力端子が取り付けられているパネルは、本体シャーシからフローティングさせているため強固に固定されているものではありません。そのため、ケーブルを端子に接続する場合などにパネルが動くことがありますが、動いても機器の異常や故障ではありません。

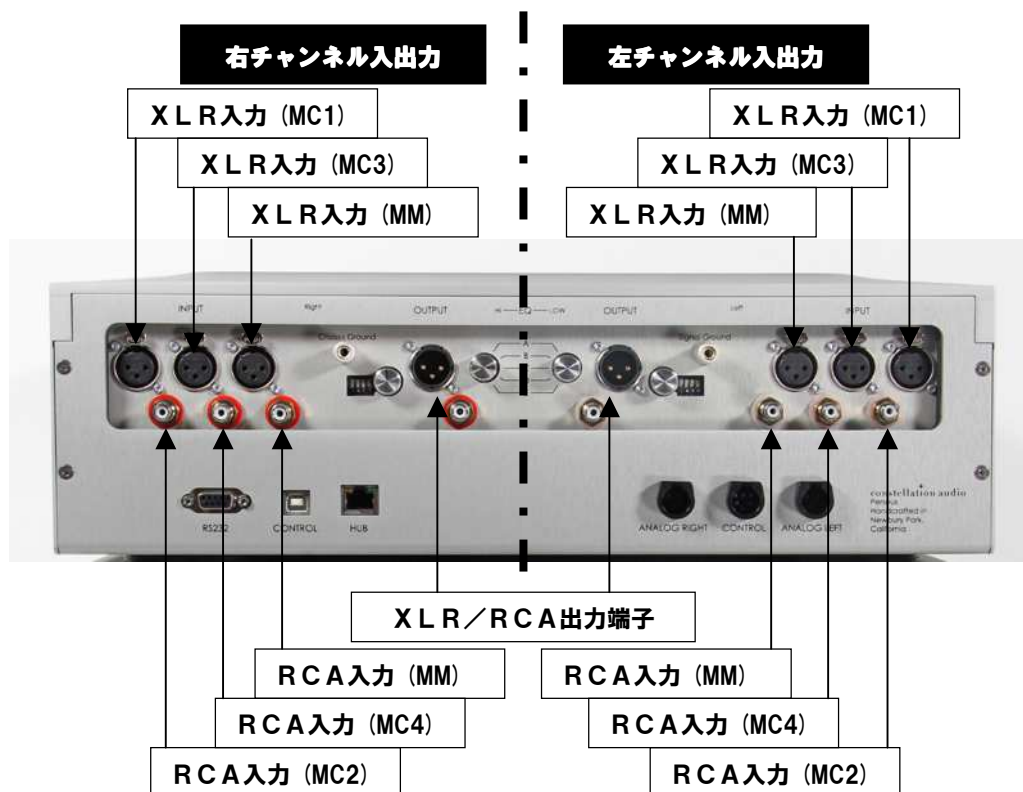


3・2 信号入力ケーブルの接続

- ・本機はMC型カートリッジ用入力2系統と、MM型カートリッジ用入力1系統を装備しています。この各入力はいずれもバランス入力用のXLR端子と、アンバランス入力用のRCA端子を備えています。
- ・本体背面の最も外側に配置されたXLR端子が「MC1」。そのひとつ内側のXLR端子が「MC3」です。この両端子の下にそれぞれ配置されたRCA端子が、「MC2」と「MC4」になります。
- ・最も内側に配置されたXLR端子、及びその下に配置されたRCA端子がMM型カートリッジ用です。
- ・MC型もMM型も、XLR端子からの入力はそのまま本機のバランス回路で増幅されます。一方RCA端子からの入力は内部でバランス信号に変換後、同様にバランス回路で増幅されます。
- ・この計6組の端子に、必要に応じて入力信号ケーブルを接続します。ただしXLR端子の「MC1」とRCA端子の「MC2」は、回路上一組になっているので、同時にこの両端子に入力を接続することはできません。どちらか片方のみをお使いください。
- ・また同様に「MC3」と「MC4」、及び「MM」用のXLR端子とRCA端子も、同時に入力を接続しないでください。

3・3 出力ケーブルの接続

- ・本体背面にある、各1組のXLR端子とRCA端子は、ともに本機の信号出力端子です。ご使用のプリアンプなどの入力端子と結んでください。なお、XLRとRCAは必要に応じ選んでいただいて結構ですが、双方の同時使用はお避けください。



3・4 アースの接続

- さらに本体背面の左右中間付近に各1個ずつのアース端子があり、背面から見て右側が「シグナルグラウンド」。左側が「シャーシグラウンド」です。ハムノイズが生じる場合など、通常はトーンアームや昇圧トランスなどからのアース線をシグナルグラウンドに結びます。しかしハムの要因は様々で対策もケースバイケースであることから、例えばプレーヤーなどからのアース線を接続するために用意したものがシャーシグラウンドです。状況に応じてご活用ください。



4 操作方法

4.1 電源投入 ① (メイン電源投入からスタンバイ状態に)

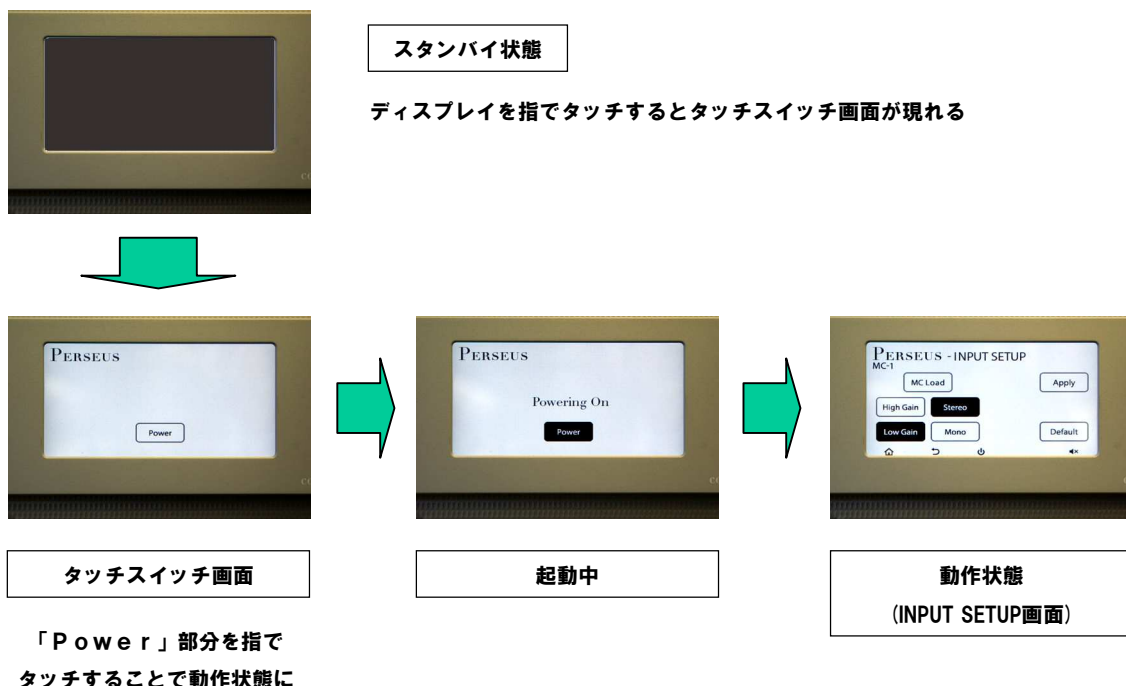
- ・ 必要な接続が全て完了したら、最後に電源部背面のAC入力プラグにACコードを差し込みます。
- ・ 本機が使用するAC電源コンセントを、他のハイパワーアンプなどと共用した場合、本機の性能に悪影響を与えることもあります。そのためAC電源は本機専用の壁コンセントなどから取るのが理想的です。
- ・ 電源コードの接続が終了したら、電源部のAC入力プラグにあるメイン電源スイッチの上側を押し込んで、電源オンにします。スイッチがすでにオンになっていたとしても、とくに問題はありません。
- ・ スイッチがオンされると、本体のディスプレイが点灯してConstellation Audioの文字が現れたあと、ただちにタッチスイッチ画面に変わり、さらに数秒後にディスプレイは消灯します。(スタンバイ状態)



メイン電源投入後のディスプレイ画面の移り変わり

4.2 電源投入 ② (スタンバイ状態から動作状態に)

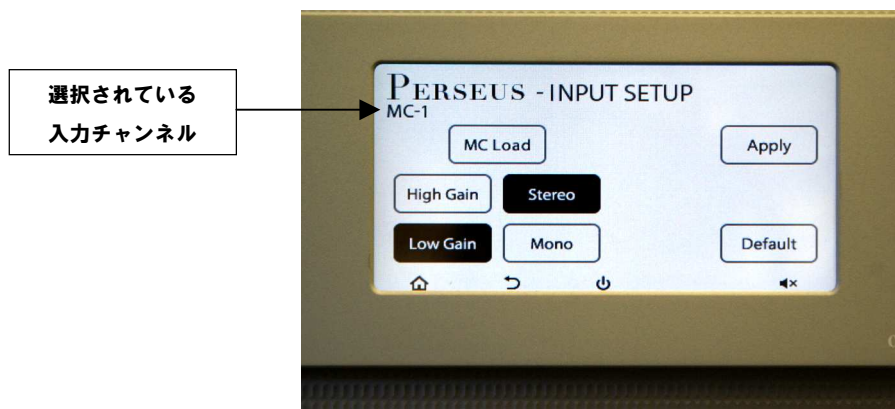
- ・スタンバイ状態のディスプレイを指で軽くタッチすると、再びタッチスイッチ画面が現れますから、画面上の「Power」の文字を指でタッチしてください。すると「Power」の部分が黒く変わり、その上にPowering Onの文字が現れます。これで本機に電源が投入されました。
- ・しかし、回路はただちに動作はしません。きわめて敏感で高性能な素子やパーツを多数搭載している本機では、およそ30秒前後の時間をかけ(室温などの条件により異なります)、回路全体が一定の条件に達するまで待機。条件に達するとディスプレイが「INPUT SETUP」画面に変わり、動作状態に入ります。



メイン電源投入後のディスプレイ画面の移り変わり

4・3 INPUT SETUP画面

- ・「INPUT SETUP」の画面には、本機出荷時のチェックなどによる、最終設定の内容がそのまま残っていて表示されます。左上の Perseus の表示の下に、選択されている入力名。その下の枠内には「MC Load」のほか「Stereo」「High Gain」「Low Gain」などがあり、それらの文字をタッチすることで、そのモードを選ぶことができます。ちなみにゲイン選択はMC型使用時のみに設定可能で、「Low Gain」は64dB／「High Gain」は71dBです。
- ・この「INPUT SETUP」画面の右側には、「Apply」と「Default」の文字があります。この画面、及び後記する入力選択画面などでの操作を、そのまま保存する場合は「Apply」をタッチしてください。これにより本機の電源がオフされた場合でも設定は保存され、再び電源を投入するとその内容が表示されます。
- ・いっぽう「Default」は、設定の変更を無効とし、工場出荷時の設定に戻ります。

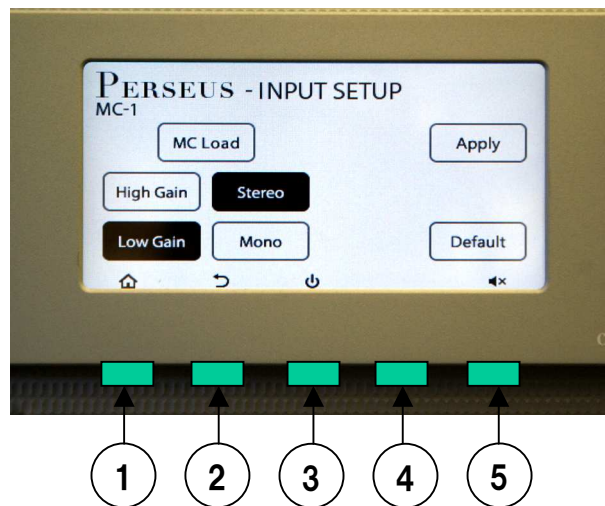


INPUT SETUP 画面

スタンバイ状態から動作状態に切り替わった最初の画面
お買い上げ後初めて動作状態に立ち上がった際は工場出荷状態の設定で表示されます

4.4 ファンクション・ボタン

- ディスプレイの下の部分には5個のファンクション・ボタンが設けられています。このボタンは下向きで凸部が小さいため、必要に応じてディスプレイにその位置がシンボルマークで示されます。ボタンは左から順に、INPUT SETUP画面と入力選択画面を切り替える「ホームファンクション・ボタン」。ひとつ前の画面に戻る「リターンファンクション・ボタン」。スタンバイ状態にする「スタンバイファンクション・ボタン」。ディスプレイ設定画面に切り替える「セットアップファンクション・ボタン」。ミュートをオン/オフする「ミュート・ボタン」です。



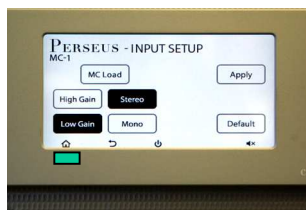
ファンクションボタン

- 下向きの小さなボタンです
- 機能はボタン上部のディスプレイに表示されます

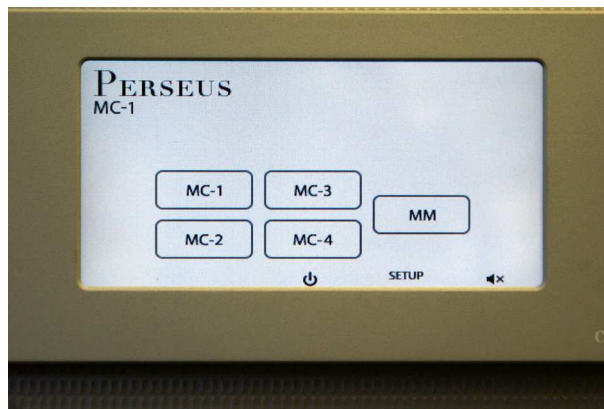
- | | |
|-------------------------------------|------------------|
| ① ホームファンクション: | 入力選択画面に切り替わる |
| ② リターンファンクション: | ひとつ前の画面に戻る |
| ③ スタンバイファンクション: | スタンバイ状態にする |
| ④ セットアップファンクション: | ディスプレイ設定画面に切り替わる |
| (④ セットアップファンクションは入力切替画面の時にのみ表示されます) | |
| ⑤ ミュートファンクション: | ミュートをオン/オフします |

4・5 入力切替え

- ・ 入力を切り替えるにはホームファンクション・ボタンを押して、ディスプレイを入力選択画面に切り替えます。画面には前記「3・4 入力信号ケーブルの接続」で説明した「MC1」「MC2」「MC3」「MC4」「MM」の、計5入力の文字が表示されます。なお、MM型カートリッジ用にもXLR端子とRCA端子がありますが、ディスプレイでの表示は「MM」のみとなっています。
- ・ この中から希望の入力をタッチすると、画面は直ちにINPUT SETUP画面に戻り、左上の入力名は新たに選択した入力に替わっています。
- ・ 入力選択画面で「MM」を選んだ場合、切り替わったINPUT SETUP画面はMM入力用になっているため、操作は「Stereo」と「Mono」の選択のみとなります。

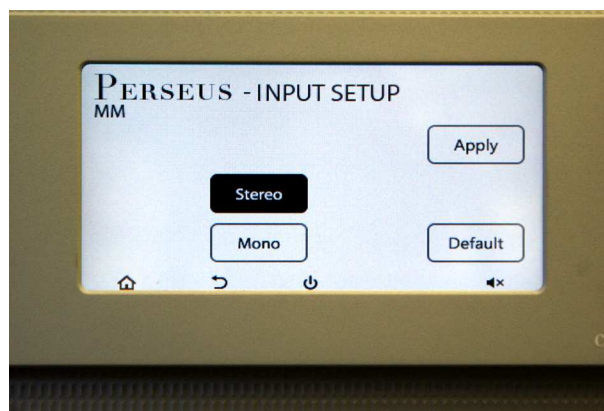


ホームファンクションボタンを押すと入力設定画面に切り替わる



入力設定画面

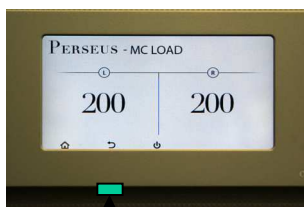
- ・画面にタッチして希望の入力に切り替える



MMタイプ入力設定画面

4.6 MCロードの設定

- MC型カートリッジを選択するとINPUT SETUP画面に「MC Load」の文字が表示されます。これをタッチするとディスプレイはMC Load画面に変わり、すでに設定してあるL/Rそれぞれの負荷抵抗値が示されます。
- 新たな抵抗値の設定は本体背面にある、L/R独立の2個のツマミで行います。画面の数字を見ながらツマミをゆっくり回転させてください。1Ωステップで0～999までの設定が可能です、「000」の設定は避けてください。
- MC型カートリッジはそれぞれ固有の内部抵抗を有していますが、受け側の負荷抵抗値がそれと全く同じ数値の必要はなく、受け側の数値がそれより大きければ問題ありません。ただし受け側の数値がカートリッジ側の数値より小さい場合は、性能が十分に発揮されないため、必ずカートリッジ側の数値より大きい値を設定してください。
- MC型カートリッジには内部抵抗10Ω以下のロー・インピーダンスタイプ/40～50Ω程度までのミドル・インピーダンスタイプ/それ以上のハイ・インピーダンスタイプなどがありますが、いずれを使う場合にも、通常は負荷抵抗200～300Ωの設定で問題ありません。しかし、さらに高めの設定などにより生じる、高域特性の変化をお楽しみいただくのも結構です。
- 本機のMCロード設定は前記のようにL/R独立であり、また、表示の数値は環境変化などに極めて敏感な高性能素子の抵抗値をリアルタイムで示しているため、表示値が目的数値どおりで、しかもL/R同一に設定するのは容易ではありません。しかし、その誤差が目的数値の10%以内程度であれば、全く問題はありません。
- 一度設定された数値は、再びツマミ操作で新たな数値を設定しない限り、電源オフなどがあってもそのまま維持します。ただし温度変化などの影響により多少の数値変動を生じることはありますが、これも10%以内の変動ならば、機器のトラブル等ではないのでご安心ください。
- 数値設定が終了したら、「リターンファンクション・ボタン」を押して元の画面に戻してください。



設定後はリターンファンクションボタンを押して元の画面に戻る

MCロード 表示画面



MCロード調整ノブ

背面部

4.7 MMロードの設定

- MM型カートリッジには、本体背面に装備されたL/R独立の4P型ディップスイッチにより、負荷容量値と負荷抵抗値の設定が可能です。スイッチはSW1とSW2が負荷容量設定用。SW3とSW4が負荷抵抗設定用です。
- スイッチは極めて小型なので、ピンセットなどで慎重に操作してください。各スイッチは上に押し上げた状態がオフで、下に下げた状態がオンです。

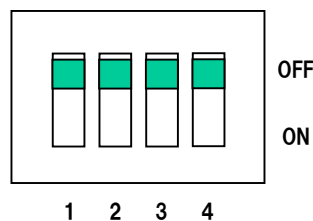
・ 負荷容量は、	SW1とSW2の双方がオフの場合.....	バイパス
	SW1かSW2のどちらかがオンの場合.....	100pF
	SW1とSW2の双方がオンの場合.....	200pF
・ 負荷抵抗は、	SW3とSW4の双方がオフの場合.....	47kΩ
	SW3だけがオンの場合.....	33kΩ
	SW4だけがオンの場合.....	10kΩ
	SW3とSW4の双方がオンの場合.....	不使用 (抵抗値が低くなりMM型に適合しません)

- MM型カートリッジは負荷容量値を変えることで、高域特性が微妙に変化します。カートリッジに負荷量値の指定がある場合は、それに最も近い数値を設定します。指定がない場合は音の変化を確かめながら、好みの容量でお使いください。
- また一般的なMM型カートリッジの負荷抵抗は、通常、47kΩで受けるのが好ましいとされています。しかし機種によってはそれより低い値のほうが好ましい例もあることから、本機では33kΩと10kΩを用意しました。この場合も音の変化は高域に感じられやすいので、高域特性の変化を確かめながら好みの値をお選びください。
- MC型カートリッジ用の昇圧トランスをご使用の場合は、47kΩに設定してください。



MMロード設定スイッチ

背面部



スイッチの並びはL/R 共通です
(背面から見て左側が1)

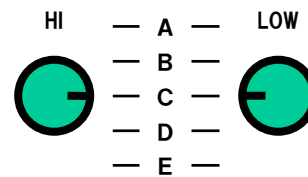
4.8 フォノ・イコライザー特性の調整

- ・本機は極めて高精度なフォノ・イコライザー回路を実現しています。従いまして1954年に制定された、世界統一規格の RIAA 特性に基づくレコードであれば、本機により極めてフラットな再生を得ることができます。しかしごく少数ですが、それ以前のレコードには RIAA と異なる特性のものもあり、この場合、RIAA カーブではフラットな再生が得られません。このため本機では RIAA カーブの 50Hz 付近の低域レベルを1dBステップで±2dB、さらに 10kHz 付近の高域レベルを 0.5dB ステップで±1dBを、それぞれ調整可能としました。
- ・調整は本体背面の高域用と低域用の2個のツマミで行います。A～Eの5ポジションのうち、AとBはプラス／Cはフラット／DとEはマイナスです。これにより RIAA 特性以外のレコード再生にも効果を発揮するとともに、RIAA 特性レコード再生の場合でも、録音のキャラクターやカートリッジの特性などの、微妙なコントロールに役立ちます。



イコライザ特性調整スイッチ

背面部



高域調整スイッチ (HI : 10kHz) 背面から見て左側

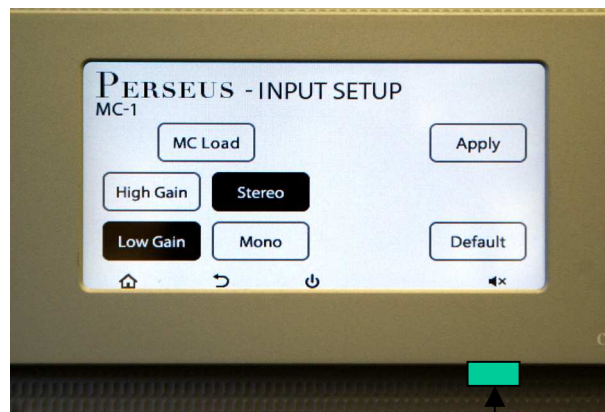
- A : + 1.0 dB
- B : + 0.5 dB
- C : 0 dB
- D : - 0.5 dB
- E : - 1.0 dB

低域調整スイッチ (LOW : 50Hz) 背面から見て右側

- A : + 2.0 dB
- B : + 1.0 dB
- C : 0 dB
- D : - 1.0 dB
- E : - 2.0 dB

4.9 再生を開始する

- これで全ての接続と設定が終了したので、いつでも再生を開始することができます。ただし本機は、新たに電源を投入した場合は出力がミュートされていますから、接続したプリアンプなどのボリュームを上げる前に、「4.3 ファンクション・ボタン」で説明した「ミュートファンクション・ボタン」を押してミュートを解除してください。

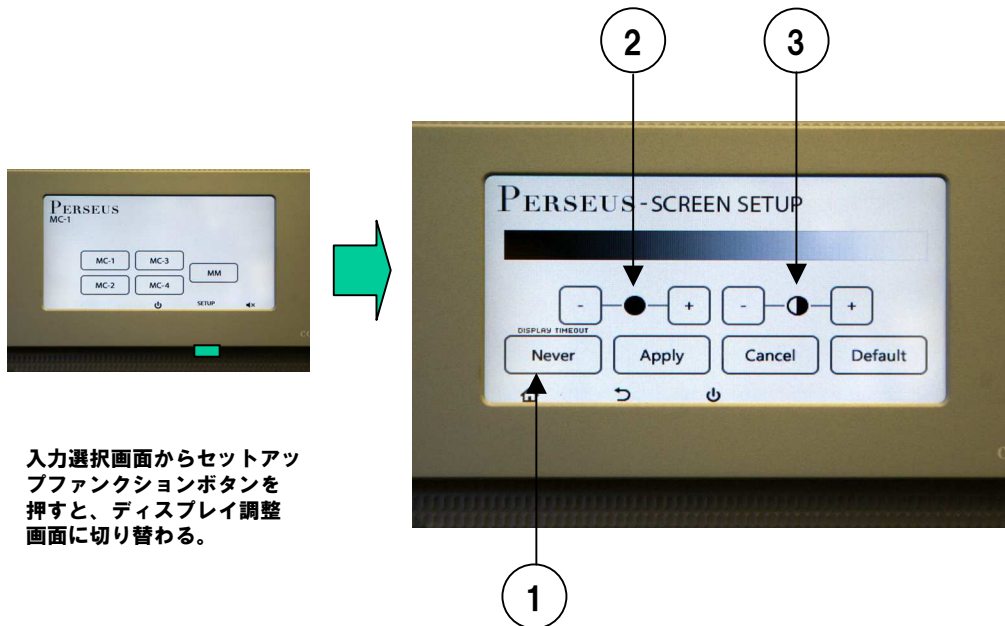


ミュートファンクション・ボタン

- 押すとミュートが解除
- 再度押すとミュート
- ディスプレイの表示が状態に応じて切り替わります

4.10 ディスプレイの各種調整

- 前記「4.3ファンクション・ボタン」で記した「セットアップファンクション・ボタン」を押すと、SCREEN SETUPと書かれたディスプレイ調整画面になります。この画面の操作により、ディスプレイの明るさ調整／コントラスト調整／ディスプレイの表示時間設定などが行えます。設定終了後は画面上の「Apply」をタッチして、設定を有効にしてください。



入力選択画面からセットアップファンクションボタンを押すと、ディスプレイ調整画面に切り替わる。

① ディスプレイ表示時間：

- 15 sec：何も操作しない状態が15秒続くとディスプレイ消灯
- 30 sec：何も操作しない状態が30秒続くとディスプレイ消灯
- 1 min：何も操作しない状態が1分続くとディスプレイ消灯
- 5 min：何も操作しない状態が5分続くとディスプレイ消灯
- 10 min：何も操作しない状態が10分続くとディスプレイ消灯
- NEVER：常にディスプレイ点灯

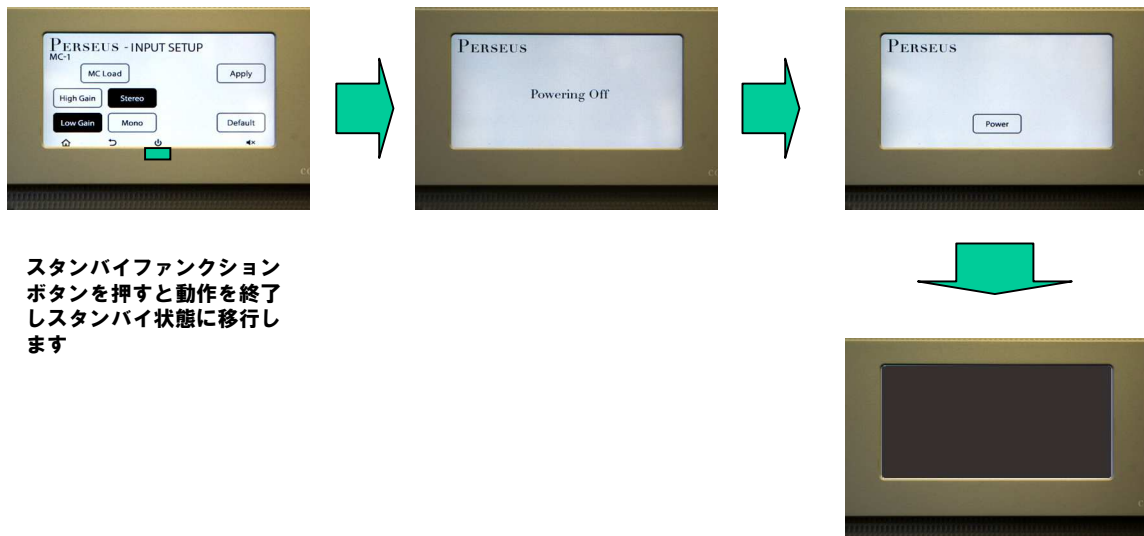
② ディスプレイ明るさ調整 +：明るく、-：暗く

③ ディスプレイコントラスト調整 +：コントラスト上がる、-：下がる

- 設定を確定させるには「Apply」にタッチします
- 設定を中止する場合は「Cancel」にタッチします
- 工場出荷状態に戻すには「Default」にタッチします

4.11 再生を終了する

- 再生を終了するときは、ディスプレイ下部の中央にある「スタンバイファンクション・ボタン」を押してください。するとディスプレイには Powering Off の文字が浮かび、そのまま約10秒間のクールダウンに入り、すべての操作は不能になります。
- クールダウンが終了するとディスプレイはタッチスイッチ画面になり、その数秒後にディスプレイは消灯します。(スタンバイ状態)。この状態で本機には微弱な電流が流れています。普段お聴きにならないときもメイン電源をオフにせずに、このスタンバイ状態にしておくことをお勧めします。
- また消灯したディスプレイに触れるとタッチスイッチ画面が再び点灯しますが、この場合ディスプレイ調整画面で設定したディスプレイ表示時間に基づき消灯いたします。消灯した状態ではタッチスイッチ画面の機能は使用できませんので、再度ディスプレイにタッチしてディスプレイを点灯させてから操作ください。



**スタンバイファンクション
ボタンを押すと動作を終了
しスタンバイ状態に移行し
ます**

- ご旅行などで数日間ご使用にならないなどの場合は、電源部のメイン電源スイッチをオフにしてください。

5 トラブルシューティング

<p>ユニットの電源が入らない</p>	<p>次のことを順番に試してみてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.PERSEUSの電源部およびコンセントに電源ケーブルがしっかりと刺さっていることをご確認ください。 2.PERSEUS本体および電源部に給電ケーブルがしっかりと刺さっていることをご確認ください。 <p>給電ケーブルを抜き差しする際は、必ずメイン電源スイッチをOFFにしてから行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3.電源部の背面にある電源スイッチがONIになっていることを確認してください。 4.PERSEUSがACラインコンディショナーに接続されている場合、ACラインコンディショナーの電源が入っていることをご確認ください。 5.電源コードを変えてみてください。
<p>音が出ない</p>	<p>次のことを順に試してみてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.入力に対する各端子の差込口があっているかご確認ください。 <p>MC1とMC3はXLR入力、MC2とMC4はRCA入力です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2.ターンテーブル上のレコード表面にしっかりと針が当たっていることをご確認ください。 3.MC入力を選択している場合、MC LOADボタンをタッチしてMCロード設定値を確認ください。そしてMCロードが「000」になっていないことをご確認ください。 4.システムのソース機器からスピーカー間のケーブルが、それぞれしっかりと接続されていることをご確認ください。 5.プリアンプ等のボリュームが十分に上がっていることをご確認ください。 6.ミュートがオンになっていませんか。
<p>音が左右逆に聞こえる</p>	<p>使用するシステムのソース機器からスピーカー間のケーブルが全て左右正しく接続されていることをご確認ください。</p>
<p>片方のスピーカーからしか音が出ない</p>	<p>使用するシステムのソース機器からスピーカー間の、音が出ない方のケーブルが全てしっかりと接続されていることをご確認ください。</p> <p>また、PERSEUSへの入力は、MC1とMC3はXLR入力、MC2とMC4はRCA入力です。左右の双方が同じチャンネルに接続されていることをご確認ください。</p>
<p>再生音にハムノイズが入る</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.ターンテーブルとPERSEUS間のグラウンド端子がしっかりと接続されていることをご確認ください。 2.標準的には、トーンアームのグラウンドをシグナルグラウンドへ、ターンテーブルのモーターグラウンドをシャーシグラウンドへ接続することが推奨されます。 <p>それでも過度のハムノイズが発生する場合、シグナルグラウンドにターンテーブルやトーンアームを接続し、ACコンセントのセンタープレートのネジをシャーシアースに接続することで、解決することがあります。</p> <p>また、シグナルグラウンド端子とシャーシグラウンド端子を接続してみるなどの方法をお試しください。</p>

上記手順を行った上で問題が解決しない場合、当社もしくはお買い上げいただいた販売店までご連絡ください。

6 スペック

Inputs	2 MC (XLR or RCA) , 1 MM (XLR or RCA)
Outputs	1 XLR stereo, 1 RCA stereo
GAIN	64dB/71dB (MC) 43dB (MM)
THD + N	< 0.05%, 10 Hz - 20 kHz
Frequency response	±0.1dB 10 Hz - 20 kHz,
Output noise	-100 dB, 2V output, 20 Hz - 20 kHz
Load impedance	MC inputs 0Ω - 1000Ω
Load impedance	MM input 10 kΩ - 47 kΩ
Load capacitance	MM input 100pF or 200pF
GROUND端子	Chassis ground x1 , Signal ground x1
Dimensions Preamp	432 x 405 x 153 mm (wdh) 16 k g
Dimensions Power supply	432 x 336 x 73 mm (wdh) 6 k g

Stella Inc.

株式会社ステラ
〒173-0026 東京都板橋区中丸町51-10
Tel: 03-3958-9333
Fax: 03-3958-9322
URL: <http://www.stella-inc.com>
E-mail: e-info@stella-inc.com